



注目プロジェクト

八芳園×自然栽培パーティ

自然栽培パーティ

2018年事業計画

大盛況!!

ハ女マルシェ・沖縄マルシェ

自然栽培に信頼を

GAPと有機JASの取得について

農福連携 自然栽培パーティ マガジン エッポンを健康にしよう！

2018 SPRING 05

& NEWS

ますます広がる自然栽培パーティ。
地域に、社会に、農福からはじまる
ミライが順調に育っています。

01 注目プロジェクト「八芳園×自然栽培パーティ」

ともに目指す場所は、東京2020オリンピック・パラリンピック。八芳園とパートナーシップを締結！

2018年3月2日、自然栽培パーティは、日本でも屈指の「おもてなし」を提供する株式会社八芳園とパートナーシップを締結しました。八芳園は、結婚式のほか日本の伝統美、クールジャパンなどを表現した海外向けの宴席も多く企画している、海外からも注目が集める結婚式場です。今回の締結は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、農福連携の活動支援、自然栽培の農作物の提供など、相互の連携を強化していくことについて、包括的連携協定を結びました。

佐伯リーダーは、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックに食材を届けることを目標に、それだけではなく八芳園様を通じて自然栽培の食材の魅力を世界中の人々に広げていきたい。ここ八芳園で式をあげるお客様、そして、そこからはじまる人生に、自然栽培の食材を通じて、子どもたち、その先の孫たちに、食で健康になるような環境を作っていく」と宣言。パートナーシップを組むことにより、八芳園を通じて、自然栽培パーティが育てた食材や活動を知ってもらい、日本も世界も豊かにしていきたいとの思いを



語りました。八芳園の代表取締役社長、長谷晴義様からは「食を通した健康な生き方を伝えていくことに加え、農福連携の施設から食材を購入することで、障害者の方々を支えていきたい。八芳園と自然栽培パーティが連携することで、2020年に向けてできること、日本が抱えている問題などに、役立てるのではないかと思っています」と、これから自然栽培パーティの可能性、広がりを予感させる期待感のこもったメッセージをいただきました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、八芳園とどんな仕組みを作っていくか。地域から全国に供給量が増えていく中で、今後は、各施設が連携しながら、生産する農作物、生産量の共有などが必要になります。皆様、どうぞ、ご協力のほど宜しくお願ひします。



食品安全、品質管理が重要に。八芳園への流通は、自然栽培パーティ会員の「有限会社サン・スマイル」が担当。プロジェクトが本格始動する前に、流通の仕組みなど正式なアナウンスをします。

早くも第2弾！ ALL ATHLETE DREAM DINNER 2018が開催します！

昨年11月に八芳園にて行われた自然栽培パーティ初のディナーショー「ALL ATHLETE DREAM DINNER」。東京2020オリンピック・パラリンピックに出場が期待されるアスリートの皆さんはじめ、木村秋則さん、同競技大会組織委員会顧問である三國清三シェフなど、総勢300人が集まり、大盛況のうちに幕を閉じました。

そして今回、多くの評判をいただき、早くも第2弾が決定しました。八芳園とのパートナーシップもあり、オリンピック・パラリンピックに向け、さらに弾みを付けたいという思いのもと、2018年7月27日(金)に開催します。

前回は初の試みということで、戸惑ったり、迷惑をかけることがありました。が、2回目ともなれば、反省と失敗を最大の栄養に、自然栽培パーティの魅力を知ってもらえると思います。



ALL ATHLETE DREAM DINNER
2018.7.27 FRI 第2弾！開催決定

02 活動実績

自然栽培パーティ 2018年事業計画について

3月2日、全国協議会において、2018年度の事業計画が発表されました。合わせて、2018年のテーマとして「チャレンジ&クオリティ」も発表されました。今年度は、八芳園とのパートナーシップに代表されるように、自然栽培パーティも「生産者」として、どんどん進化しなければいけません。「チャレンジ&クオリティ」はまさに、本年度にぴったりのテーマ。今までの経験が花咲く2018年にしたい、とのメッセージが込められています。

なお、2018年の事業計画については、下記の表にてまとめています。各項目についての詳細のほか、追加のイベントや企画がある場合にはお知らせします。



2017年度 全国研修会の報告

3月3日に全国研修会を実施しました。伺ったのは、埼玉県入間郡三芳町で固定種・無肥料自然栽培の農園を営む「明石農園」と埼玉県ふじみ野市にある「サン・スマイル」。明石農園では、雑草についた土の状況を読み取り、その環境に合う作物を選んで栽培していることや、栽培計画の作り方、記録の取り方など、自然栽培および農業に関するノウハウを集中的に学びました。参加した方からは「植物の原理原則に立ち返ることの大切さが学べた」とのことでした。

次に伺ったのは、自然栽培パーティのメンバーであり、今後は八芳園への流通を担うサン・スマイル。全国から取り寄せられた商品を見ながら、パッケージや販売方法など、魅力的な商品、加工品の作り方のヒントなどを積極的に見聞きしていました。



ALL ATHLETE DREAM DINNER 2018

2018年7月27日(金) 開催決定

自然栽培パーティ 全国フォーラム in FUKUOKA

2018年11月23日(金)・24日(土) 福岡県福岡市



全国10ブロック勉強会の開催

全国10ブロックで年2回、勉強会を実施。栽培指導のほか品質管理について指導します。(日時未定)

指導人材の育成 ブロックリーダー勉強会

会員数増加に伴い、各ブロックでの栽培相談をスムーズに行えるよう、ブロックリーダーを育成します。(日時未定)

2018年度 自然栽培パーティ全国研修会

「滋賀 おもや」にて栽培技術向上のための研修会を開催します。(2019年2月16日(土)・17日(日))



明石農園では、自然のチカラ、そして、微生物の大切さなども教えていただきました。

03 全国で盛り上がるマルシェ特集

参加者みんなが幸せの笑顔満開!八女マルシェ 陽だまりの里(福岡)

3月11日、福岡県八女市にて農福連携マルシェin 八女が開催されました。福岡県主催、事業受託者として「陽だまりの里(明和会)」が企画・運営。売り物の商品が足りなくなるという大盛況の笑顔溢れるマルシェとなりました。当日は、八女市にある福祉事業所を中心に14ブースものお店がオープン。自然栽培の食材はもとより、たくさんの加工品、その場で食べられる出来立ての食事など、バラエティに富んだブースが並んでいました。その中でも、陽だまりの里自慢の自家製巨峰を使った「レーズンハース」は大人気。ゴマ、オオバ、カツオが入った「ど根性味噌」も飛ぶよう売れていました。



「福岡県の発表では1,900人ほどの入場者数があったと言います。地元のFMラジオや、チラシの配布など、事前の告知に力を入れました。それとシルバー層やファミリー層など、ターゲットを絞ることも成功につながったのではないかと思います」と陽だまりの里の水田さん。ブースの他、バルーンアートなども子どもたちが大はしゃぎ。八女にたくさんの笑顔が花咲いたマルシェでした。



子どもたちに大人気のマジック&バルーンアート。ライブやダンスなど、各種イベントも盛り上りました。

自然栽培を沖縄SVと共にPR!沖縄マルシェ ソルファコミュニティ(沖縄)

2月10日、イオンモール沖縄ライカムにて第二回沖縄マルシェが開催されました。沖縄からは5施設。自然栽培パーティから1施設。計6施設が自慢の農作物や加工品を販売しました。また今回は、宮古島や石垣島の事業所も参加。まさに自然栽培のオール沖縄が一堂に会したマルシェとなりました。

今回もイオンモール沖縄ライカムが全面的に支援。会場となった場所が、モールの端っこに位置する中、館内放送などで集客フォローをしてくれるなど、それを聞いて立ち寄ってくれるお客様がいたりと、たくさんの人たちが訪れていました。



また、毎年恒例のトークショーは、元日本代表で現沖縄SVの選手兼監督を務める高原直泰さん、リーダーの佐伯さん、そして、沖縄ブロックリーダーの玉城さんが自然栽培の魅力をPR。高原さんからは、昨年植えたバナナのこと、農業に対する思いなどを語ってもらいました。



各施設の自慢の食材を使った自然栽培のコラボサンドイッチ。ズッキーニやレタス、紅芋などたっぷりの具。用意した100セットは見事完売!



全 国 自 然 栽 培

仲間たちから、新鮮で栄養たっぷりのニュースです。

北海道から沖縄まで、自然栽培パーティを通じて、仲間たちはどんな広がりを実らせているのでしょうか。やってみたい栽培や、参考になる商品展開、地域とのコミュニケーションなど、皆さんの参考になるような取り組みをご紹介します。

参加福祉施設一覧

自然栽培パーティ参加福祉施設76施設(協力企業・個人を含めた総会員数102ヶ所) 2018年3月31日現在

- 北海道
就労支援センターしづく
株式会社SEED
むつみ介護サービスセンター
障がい者就労支援事業所 ワークショップようていとあさ村
ベリーベリーフーム上田
- 東北
はらから蔵王塾
鶴岡市立愛光園
六丁目農園
ふあいん
こころんファーム
ナチュラルファームそらめ
- 関東
社会福祉法人 はる
報徳ワーカーズ
障害福祉サービス事業所 菜の花
すっぽあふあ～む
埼玉福興株式会社
NPO法人多摩草むらの会 夢畑
合同会社 ライブフードサポート
社会就労センターいっすんぼうし
弘済学園デイケアセンター
- 北信越
松代三アファーム
リハスファーム
就労支援事業所 米ライフ
ライフサポート 村とも
チャレンジド立野
つばさ
ファームセンターれインボ
- 東海
むもんカンパニー
むもんカンパニー青い空
障がい者支援施設むもん
就労支援舞星 ジョブ長久手
きざはし
とものわ
D A I それいゆ
大垣市立かわなみ作業所
生活介護事業所 奏楽
ほかほかワークス
障害福祉サービス事業所 明日香
Feel
サンスマイルビレッジ 菜園'S
ゆい
なかぎりワーカス
スマイルベリーフーム
わーくす昭和橋
グレース工房
サンほっとハート
シンシア豊川
多機能型事業所 くすの木
こいしろの里
- 四国
まるく
メイドイン青空
障害福祉サービス事業所 ワークセンターれもん
- 中国
ゆめサポート・バク
JOBプラスはんど
いすもえん
ゆめの森こども園
- 関西
おもや
ウッディ伊香立
地球のなかも
さんさん山城
青葉仁会
- 九州
樹樹
国分地域福祉事業所 ほのぼの
さんすまいる伊都
楽しい職場有限会社
ゴーマル
JOB福だまり工房
特別養護老人ホーム さんすまいる唐原
ワーカーズコープ おおいた
夢根っこ
特定非営利活動法人 佐賀中部障がい者ふくしネット
ワークショップ しんあい
八幡西障害者地域活動センター
就労支援 やまびこ農苑えぼし
- 沖縄
就労継続支援A型 TEAM VILLAGE



NEWS | チーム北海道 リーダー 柳瀬麻由子

今年から畠の活動を開始する事業所があるので、作付計画から収穫まで、チームみんなで考え協力していきたい。また、体験イベントや収穫イベントを通じて、自然栽培パーティを広めていく活動もしていきたいです。



NEWS | チーム東北 リーダー 佐伯康人

福島のこころんでは、東北では珍しい二毛作にチャレンジ。稲刈りの終わったあとでの田んぼで玉ねぎを収穫しました。二年目の今年もチャレンジします。また、微生物のチカラを最大限に活かす無投⼊栽培にもチャレンジしています。



NEWS | チーム北信越 リーダー 藤島健一

自然栽培パーティとして活動して1年。見えてきたのは、売りとなる目玉商品を作ること。恵まれた自然環境で育った農作物をはじめ、副産物がたくさんあります。それらを、自分たちの商品としてどうプランディングしていくか、今年は、そこに力を入れていきたいと思います。



NEWS | チーム関西 リーダー 杉田健一

種子法廃止を踏まえ、地域の野菜やコメなど、在来種の種を取り残していくことが今年の目標です。また、伝統野菜の栽培にチャレンジするなど、地域性を活かした農作物をどんどんと作っていきます!



NEWS | チーム九州 リーダー 池田浩行

今年は自然栽培パーティのフォーラムが福岡で行われます。地元開催として目標は1000人!九州チーム一丸となって、自然栽培パーティの魅力、そして、自然栽培の美味しさを伝えています。

NEWS | チーム関東 リーダー 新井利昌

八芳園とのパートナーシップも決まり、これからは生産者として、求められるものを生産する、ということが重要になります。八芳園からも話に出たステック用のじゃがいも、サツマイモ、カボチャ、グリーンピース…。2020年へ向け計画的な生産をしていきます。



NEWS | チーム東海 リーダー 磯部竜太

八芳園さんとの連携協定や、地域での認知度が高まりから生産量が足りないことが、予想されます。チーム東海では、メンバーを増やし合同で出荷できる体制づくりを目指し、自然栽培の美味しさ、楽しさを広げていきます!



NEWS | チーム四国・中国 リーダー 佐伯康人

ここ四国や中国でも、自然栽培パーティのメンバーをもっともっと増やしていきたいですね。農福連携はもちろんのこと、福祉以外の企業や人とも関係を深めて、自然栽培パーティの可能性を広げていくことが目標です。今年はどんな広がり、そして未来の収穫があるのか楽しみにしてください!



NEWS | チーム沖縄 リーダー 玉城卓

マルシェなどを通じて自然栽培の認知度をあげて、その美味しさや安全性を沖縄の人にも知ってもらうことが目標です。そして今年こそは、自然栽培パーティの会員を増やしたい。そのために、あらゆるシーンで農福連携の可能性をPRしていきます。

パーティマツブ



自然栽培パーティ公式facebookでは、日々たくさんのニュースが各事業者の皆さんから投稿されています。
もちろん、皆さんからの投稿も募集中! facebookから「自然栽培パーティ」を検索。
もしくは右記のQRコードからアクセスしてください。全国の仲間が待っています!



● P I C K U P ●

栽培 「黒千石大豆」、おすすめです!
from みのり彩園(就労支援センターしづく)

就労支援センターしづくのみのり彩園で、育てられているのが「黒千石大豆」。栽培に手間がかかるため、ほとんどつくれなくなっていましたが、その栄養価の高さで再び注目を集め、いま「幻の大豆」ともいわれています。北海道の農業は冬にする作業がなくなってしまうことが課題ですが、黒千石大豆は収穫してからも手で行う細かい作業が多く、通年で作業を生み出すことができるのも、うれしいポイント。昨年は100kg収穫しましたが、今年はその3~4倍の収量を目指します! おすすめは、お米といっしょに炊く食べ方。

栽培 キクイモ、キクイモ、キクイモ!
from こころん

「キクイモがフィーバーして…」と担当の関根考迪さん。血糖値を下げ、糖の吸収を抑える効能がある聞き、昨年3反分作付けしたところ、2月にテレビ番組で紹介され、瞬く間に注文が殺到! 「芋」というけれど、でんぶんは0。見た目は「生姜」、風味は「ごぼう」、食感は「梨」だそう。生でサラダに入れたり、きんぴらやカレー、素揚げもおすすめ。「キクイモで、みんな健康で元気に! 儲かるし、みんなに勧めたいです」とのこと。種芋がほしい人はご連絡を!

連携 八百屋歴45年。
満を持して自然栽培に挑戦!
from 八百義

千葉市にて青果店「鮮度畑」を営みながら、2016年から自然栽培をスタート。1年目は玉ねぎ、里芋、じゃがいもに挑戦。2年目には水稻栽培にもチャレンジ。お米は無門福祉会から譲り受けた「イセヒカリ」を栽培。昨年は5反で32俵もの新米が収穫できました。このお米は、お店でも販売して、瞬く間に完売。大人気となりました。「肥料を使っている野菜と比べて、自然栽培で育てた野菜はえぐ味がなくて美味しい」と八百屋歴45年の大野さん。野菜の目利きが太鼓判を押すなら間違いない!

販売 ふるさと納税の返礼品になりました!
from シンシア豊川

昨年自然栽培をスタート。農業経験者は誰もいない中、見事米は豊作に! 出来栄えも佐伯さんから100点をもらいました。「新しいことだけだったけれど、楽しいと思えた。日焼けが勲章です!」と担当職員の大林えりさん。今年は田んぼを倍の2反にするほか、裏作が次の年の米作りに良いと知り稻刈り後の田んぼでタマネギ作りにも挑戦しました。お米は豊川市のふるさと納税の返礼品にも決定! 地域の人たちを巻き込み、いっしょに、地元豊川を盛り上げていきたいと思っています。

連携 『人にも環境にも優しい食』、
これからぞくぞく?!

from つばさの会

近くにヴィーガンの農家さんが移住してきたことから、自然栽培に関心を持つようになり、パーティに参加したつばさの会。農家さんたちと「連携」というよりは、1つになってさまざまな活動を展開しています! 実はつばさの会がある中能登町は国に認定された「どぶろく特区」。「こだわり米中能登どぶろく研究会」にも入り、自然栽培のお米での天然麹づくりを進め町の活性化に繋がるよう活動しています。そこから、甘酒やどぶろくも商品化予定! 最近では、自然栽培大豆による納豆も藁からつくってみました。どんな商品が、生まれてくるか楽しみです。

連携 心強い助っ人、加わりました!
from 青葉仁会

青葉仁会に1月から入った清水欣吾さんは、滋賀の草津市で家業の農業を継いで20年。生粋の農家でしたが、体を壊し自分の水田を、パーティのメンバー、おもやに面倒を見もらうことに。そして、清水さん自身は、農業の専門家を探していた青葉仁会で働くことになりました! いまは週4日のアルバイト。「おもやで、軽度の人は見ていたけれど、ここは重度の人たちがしっかりと作業をしていて、すごいなあと驚きました。職員さんが粘り強く向き合ってきた時間を感じます」と清水さん。心強い助っ人が、加わりました。

栽培 「固定種」のにんじん栽培も、慣れたもの
from ゆめサポート・パク

固定種によるにんじん栽培も、4年目を迎えたパク。4月はにんじんの種まきの季節です。収穫したにんじんの中から、種とり用のにんじんに選ぶのは、販売するものと同品質のもの。形が悪いものは選びません。葉の部分だけを切り落とし、まるまる地面に植えてしまいます。そこから茎や葉っぱが出て来て、白い花が咲いた後、たくさんの種ができる。種はその後冷蔵庫に入れ、休眠させてから使います。自分たちで種から育てたにんじんの味は、格別です!

栽培 自家採種に、とことんこだわる!
from 就労支援 やまびこ農苑 えぼし

「福祉」と「農業」、それに「再生可能エネルギー」の3つの関心事を事業化したいと思っていた施設長の山田勝彦さん。4年前に発達障害の子向けの放課後等デイサービスをはじめたところ、「想像以上に地域のニーズがあって」、県内10カ所に拡大。将来の子どもたちの就労先もつくりたいと、2年前から農園の構想をあたためてきました。地域の耕作放棄地をお借りしてテスト栽培などの成果も出たことから、晴れて今年2月に就労継続支援事業所を立ち上げ。種にも自家採種にもこだわった作物をつくりたいと思っています。

栽培 沖縄だからこそできる
独自性のある食材を!
from ソルファコミュニティ

ソルファでは、美味しいだけじゃない身体の病に期待できる農作物にチャレンジ。これは、「ハッショウマメ」という東南アジアなどの熱帯が原産の豆。なんとこのハッショウマメは、「L-ドーバ」が多く含まれていて、バーキンソン病の薬としても可能性がある植物だそうです。ソルファコミュニティでは、ハッショウマメをはじめ、バナナやローゼルなど、沖縄ならではの農作物を生産しています。これからどんな農作物が収穫できるのかますます楽しみです。



shizen saibai party

COLUMN

Recipes of Cultivation

◎栽培指導
メイドイン青空
佐伯康人



全国津々浦々。夢と勇気と成果を持って、佐伯団長は、今日も行く! ～栽培指導 2017年度 現場レポート特集～



滋賀県(2017年8月)

自然栽培のノウハウを学んだ福祉施設のスタッフたちが独立し、自分たちの力で自然栽培をはじめています。自然栽培パーティを通じて、福祉の心と自然栽培の重要性を学んだ農業者が日本の農業に増えていくべき未来が明るくなりますね!



千葉県(2017年9月)

2度の末期ガンを乗り越え、自然栽培パーティ全国フォーラムを観て、自分も耕作放棄地を農福連携・自然栽培で再生したいと立ち上がった仲間。1年目から見事に、自然栽培、二毛作を成功させています。自然栽培が今後、医療・リハビリの分野で活躍するキッカケとなってほしいですね。



石川県(2017年10月)

農業、行政、福祉施設と自然栽培が広がっています。石川県の自然栽培パーティのメンバーたちは施設同士が同志となり、お互いの田畠を協力し合い、再生・栽培しています。個々の施設に固執せず、みんなで協働で創造・再生していくことで、持っているチカラが更に発揮され結果、個々の施設の成果が表れています。
「共生」奪い合えば足らぬ、分け合えば余る-自然栽培の「考え方」ですね。



神奈川県(2017年12月)

高齢化による梅畠、ミカン畠の離農者がすごいスピードで増えてきています。それを助けようとパーティの仲間たちがすごいスピードで再生に取り組んでいます。壊れてきている地域の特産品を自然栽培パーティの仲間たちが守っているのですね。それも今まで以上に安心な特産品として生まれ変わりながら、素晴らしいですね。



沖縄県(2018年2月)

自然栽培パーティとスポーツチームの活動が沖縄から「農スボ」という言葉を生み全国に広がっていくようになりました。この「農スボ」の取り組みで今後はバナナ、マンゴー、パイナップルと沖縄らしい農作物や果樹を育て6次化オリジナル商品の開発を進めていくようです。そして2年前から始まった沖縄在来種を守っていく活動が全国のパーティの在来種を守っていく取り組みへと大きくなりをつくり始めています。

○ 福井県(2017年8月)

県、市が中心となって、福祉施設だけではなく市民に自然栽培を広げているところもふえてきています。幼稚園の先生、ママさんグループ、会社をリタイア人たちが新しい生き方を農業・自然栽培に目向けています。



○ 北海道(2017年8月)

広大なベリー農園の離農。ブルーベリーの実がなってきたにも関わらず人材不足で収穫に困っていることを知ったチーム北海道の仲間。福祉事業所、地域の人たち、子どもたちに声掛けなどをして、300人が集まる市民活動となりました。結果は、約1.5トンのブルーベリーを収穫。今年も8月11、12日にブルーベリー大救出作戦を開催するそうです。



○ 新潟県(2017年10月)

農協、行政、学校、福祉施設が協働一体となって佐渡を自然栽培の大地にしていく取り組みです。驚くことに佐渡の自然栽培の田んぼには、天然記念物の朱鷺(トキ)が舞い降りるそうです。そして螢(ホタル)も佐渡の町に戻ってきました。佐渡のような地域が全国各地に生まれていくといいですね。



○ 佐賀県(2017年11月)

びわ、ミカンなどの地域の高齢化による栽培放棄された果樹農地を自然栽培で再生しています。佐賀のメンバー達も郷土愛が強く、地元の農業の問題や福祉就労の問題をみんなで力を合わせて解決していく取り組みを始めています。福×福の連携が各地で生まれ始めています。佐賀から農業、自然栽培の6次化が生まれてきますね。



○ 九州(2018年1月)

耕作放棄地の自然栽培による再生養蜂を行なっています。「ミツバチが世界中から消えていっている。」という近年「CCD(蜂群崩壊症候群)」という現象に危機感を持ち、パーティの仲間たちは農業の自然栽培だけでなく、ミツバチが住みやすい花や蜜のある環境をつくろうと蜜源植物を植えはじめました。
「花を植える」という取り組みも地域にとってこれから大切な活動となりますね。



応援団長からの総まとめ

全国各地、皆さんのもとへ歩いていて感じることはみんなが明らかに確実に「ニッポンを健康に」している、ということ。日々、月々、年々、笑顔が増え仲間が増え、技術がつきフィールドが広がり、誰かのためになっていること。地域でなくてはならない人となっていることを「みんなすごいなー!」って、本当に我が事のように、嬉しく感じています。そして逆に僕からみんなにわかってもらいたいことはサエキヤストは、みんなより少し経験が多く、失敗がものすごく多く、チャレンジばかりしているヤツなんだ、ということ。そんなサエキヤストでもできるこの自然栽培はみんなにできることなんだよ、ということです。

先日ある方に言われました。「自然栽培パーティの活動・内容・実績は、世界にとってとても特別で大切な事。世界中で始まらなければならぬ事なんですよ。嬉しかったです。地域のみんなの1つひとつ小さな大切な活動(自然栽培パーティ)は、世界にとって大きな大切な活動となっているんだなあ、と。全国各地のパーティの仲間のみんな、一人ひとりが経験と失敗とチャレンジを忘れないければ、恐れなければその輪は世界中に広がっていく。みんな、一人ひとりが主人公。みんながリーダーとなってますます活躍し「ニッポンを健康に!」から世界中へ!これからがもっと楽しみです!一緒に夢を見たい!」

SHIZENSAIBAI-PARTY GOODS

やのしく、やりたいな。
仕事なんだもの。

田んぼや畑は、障害者のステージです。
自然栽培パーティでは、農作業のイメージも変えたくて、
ユニフォームやグッズもつくりました。たのしく学び、はらくためにご活用ください。



01

まずはこれ! 農福連携自然栽培!

自然栽培パーティDVDシリーズ01 水稻自然栽培

¥3,000(税込)



02

一冊まるごと! 農福連携自然栽培パーティ

社会を楽しくする障害者メディア[コトノネ]別冊

¥650(税込)

ご注文・お問い合わせ

自然栽培パーティ事務局 担当:川井(無門福祉会) info@shizensaibai-party.com TEL:0565-45-7883

自然栽培に「信頼」を。

GAPと有機JASの取得について

自然栽培で育てた安心な農作物を、自分たちでアピールするよりも、公的な認証制度をもらうことで、消費者からの信頼も高まり、販路の拡大、他の食材との差別化ができます。つまり最終的には、認定制度を取得していることで、利用者の工賃アップにつながっていきます。そして今や世界の農業は、国際基準を満たしているイコール信頼、さらには常識という構図ができ上がりつつあります。今回は、自然栽培パーティとして取得してもらいたい認定制度2つを紹介します。

GAPとは

GAPとは、簡単に言うと事業者として「信頼される農場経営ができているかどうか」の証明です。自然栽培パーティとして卸先や消費者へ食材の提供する際や自然栽培のブランド価値をより一層高めるためにも、GAPはぜひ取っておきたい認証です。加えて、世間へ向けたアピールばかりではなく、農場経営者としての危機意識を再認識させることも大きな目的になります。

- 1 自分の農業の「危険」を感じること(食品衛生上の危険・労働安全上の危険など)
- 2 お客様の「要望」を感じること(よいお付き合いをするためにできることこと)
- 3 将来の地域の農業のためになること(土を守る・水を守る・次世代の生活を守る)

上記、3つのことを考えて農場経営をすることがGAPなのです。

GAP認証には種類があります。まずは一般財団法人日本GAP協会が認証しているJGAPとASIAGAP、そしてFoodPLUS社(ドイツ)が認証しているGLOBAL G.A.P(G-GAP)です。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの調達基準である、農水省ガイドライン準拠GAPと都道府県確認があります。自然栽培パーティとして農作物を流通・販売していく中では、農水省ガイドライン準拠GAP以上の認証は取得を推奨していきたいと考えます。

現在、佐伯リーダーのメイドイン青空ではG-GAPを取得。今後は、無門福祉会なども取得予定です。なお、各GAPについてのご質問は、各認証先にお問い合わせください。



有機JASとは

現在、自然栽培として認められた公的な第三者機関による認証制度はありません。すべては、信頼から成り立っている農法です。自然栽培パーティが広がっていく中、チャレンジから安定生産へと次の段階へとステップアップしている事業所が増えつつあります。さらにその先には、流通・販売が待っています。より多くの消費者・卸先へと広がっていく中、一層の安心を伝えていく手段として、自然栽培パーティでは、GAPの取得とともに有機JASの取得を推奨しています。有機JAS+自然栽培は、市場でも大きな魅力のひとつとして魅力的な商品になるとを考えています。

実際、世界ではオーガニック食品・有機農業が増えており、今後も安心な食品として伸びていくことが予想できます。だからこそ、消費者ニーズ・卸先へ「認定という安心安全」も届けることが、自然栽培パーティを強くすることにつながります。どうぞ、GAPと共に、チャレンジしてください。なお、有機JASについては、農林水産省ホームページもしくは、各地域の農政局にお問い合わせください。

うちの Social Innovator

日本の農業を支える革新者たち。

みのり菜園
(就労支援センター)
利用者のみんな



「長い冬が終わり、雪も解けて登り立てて今年も頑張るぞ!あー!」
今年はハウスを建てるお手伝いもみんなでしました。みのり菜園のモットーはます何でもやってみよう!

ジパン
豊川
利用者のみんな



昨年から自然栽培に取り組んでいます、初めての田植えに試行錯誤しながらご利用者・雇用・地域の農家さんと力を合わせて頑張っています。農作業を通してご利用者1人1人が「草とり名人」「水やり名人」「販売名人」など得意を發揮して輝ける機会となっています!!

埼玉福興
グリーンケア班のみんな



私たちグリーンケア班は、オリーブ畑でクリスマスファーム流、バーマカルチャーの世界を表現していきます!
今日は欠席ですが、新たに高齢女性メンバー2人を加わる、このメンバーで新しい「居場所」を創造していきます。最後までピッピコロリで世界を目指していきます!!

井上 匠さん、橋本 涼さん、前田健一さん (写真左から)

つばさの会



「これ、大きなったなあ。」「ん?何?変わらんがいね。」「大きなったちん。」
畑であーだこーだと言いながらも1人で出来ないことは互いにサポートし合って、にぎやかに皆でたのしまれています。
地域のこだわり米中能登どぶろく研究会や農家さん、チーム北信越の皆さんと一緒に頑張る
よー!!と気合いが入っている様子。皆の合言葉は「生きてるう!!」今年は「大根」を育てたい!!とのこと。

長尾彩香さん



ファーム部門の看板娘です。納品先ではお店の方に笑顔で「おはよう」と元気に挨拶されています。周りの方々も元気にしてくれます。農作業では一輪車運搬のスペシャリストです。重い荷物を乗っけて圃場まで運んでいたばかりです。圃場までは坂道が続くのですが運転もお手のものです。収穫時期ではかごを背負ってたくさんのお野菜を運んでくれています。

鈴木恒彦さん、中島 剛さん (写真左から)

青葉仁会



鈴木さんは、自然学校で12年目、雇用からも仲間からも頼りにされるベテラン選手。お茶やハーブの摘み取り、ブルーベリーや野菜の収穫など、難しい作業も上手にこなす方です。ハンサムな方で女性に人気があるのですが、いつも寡黙で冷静・平常心。なかなか顔に出さないポーカーフェイスも人気の秘訣?

中島さんは自然学校にきてから7年で、鈴木さんと同じベテラン勢。責任感がありだれよりも積極的に作業に取組む、と評される人です。元々は製菓に携わっていた彼は、お休みの日に古菓のハーブクラブで昼食をとるのを楽しみにされています。鈴木さんと一緒にいることが多いのですが、彼は対照的に口達者。ちやはぐに見えるのに仲が良い、不思議な関係性です。

あなたの施設の
ソーシャルイノベーターを募集します。

いいじりのスペシャリストや、水まきの達人、雑草取り名人など、自然栽培には欠かせないスタッフの皆様を紹介ください。
今後、この広報誌にてご紹介させていただきます。※応募点数が多い場合は、編集部が選定します。ご了承ください。

自然栽培パーティ ホームページ info@shizensaibai-party.com

自然栽培パーティ

検索

●自然栽培パーティへの入会に関するお問い合わせは
自然栽培パーティ事務局 [社会福祉法人 無門福祉会 内]
info@shizensaibai-party.com
TEL:0565-45-7883 FAX:0565-45-7886

●会報誌「&」に関するお問い合わせは
季刊コトノネ 編集部 [自然栽培パーティ会報誌担当 加藤・平松]
uketsuke@shizensaibai-party.com
TEL:03-5794-0505

●発行・編集
一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会
(愛称:自然栽培パーティ)

